

## 研究会開催通知

(昭和 58 年 1 月 15 日～2 月 28 日)

研究会	日	時	会場	備考
日本文入力方式	1月19日(水)	13:30~17:00	機械振興会館	前号参照
自然言語処理	1月25日(火)	10:00~16:00	京大会館	同上
コンピュータビジョン	1月27日(木)	13:00~17:30	北大	同上
計算機システムの制御と評価	2月4日(金)	9:30~17:00	機械振興会館	下記参照
ソフトウェア工学	2月9日(水)	9:10~17:50	東北大	同上
	2月10日(木)	9:10~17:10	同上	同上
知識工学と人工知能 記号処理} 合同	2月14日(月)	9:30~17:00	機械振興会館	同上
設計自動化	2月15日(火)	13:30~17:00	同上	同上
分散処理システム	2月17日(木)	14:00~17:00	同上	同上
データベース・システム	2月17日(木)	9:00~17:00	同上	同上
数値解析	2月23日(水)	13:30~16:30	同上	同上

### ◆ 第 18 回 計算機システムの制御と評価研究会

(発表件数: 9 件)

(主査: 益田隆司, 幹事: 小野欽司, 原田紀夫)

日時 昭和 58 年 2 月 4 日 (金) 午前 9 時半～午後 5 時

会場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室

(東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 渋谷—東京タワー線東京タワー, 等々力—東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車, Tel. 03 (434) 8211)

議題 特集「仮想計算機システム」

#### Tutorial

(1) 仮想計算機システムの概要と技術課題 大町一彦 (日立・シ研)

[概要] 一台の計算機上で複数の OS を効率的に同時走行させる仮想計算機システムの原理と技術課題について概説する。

#### 利用技術

(2) 仮想計算機を用いたセンター運用における問題点

小川靖彦, 坂口 瑛, 中山和彦 (筑波大・学術情報処理センター)

[概要] 筑波大学学術情報処理センターでは FACOM M-200 システム上に仮想計算機 (VM) を構成し運用を行っている。ここでは VM 導入前と導入後の比較を行い VM の問題点について考察する。

(3) 仮想計算機システムの導入効果について—大規模計算センターの場合—

末永 正, 景川耕宇 (九大・大型計算機センター)

〔概要〕 比較的負荷率の高い大規模計算センタに仮想計算機システムを導入した場合について、その得失、導入条件などを九大大型計算機センター (FACOM M 200) での経験をもとに事例報告する。

#### VM 向き OS

(4) 対話型システムとしての VM/370 CMS の諸機能

小南秀一郎 (日本 IBM)

〔概要〕 VM/370 CMS の提供する諸機能を対話型システムの観点から述べる。

#### 実 現

(5) VM 機能を持つ TSS システムの実現法

佐藤匡正, 長野宏宣 (横須賀通研)

〔概要〕 ソフト開発の総合的な支援をねらいとして、TSS センタと VM センタを統合して VM 操作を TSS 機能の 1 つとしてリモート化する方式について述べる。

(6) VM/4 (ACOS-4 仮想計算機) のアーキテクチャ

難波信治, 大野直哉, 久保秀士, 森末秀雄, 磯 秋義, 大嶋 隆 (日電)

〔概要〕 OS の核機能がファームウェア化されている ACOS-4 アーキテクチャについて実現された仮想計算機 VM/4 に関して、ハードウェア、ファームウェアに注目してその実現方式を述べる。

#### 性 能

(7) VM/4 の制御プログラムの構成と性能について

大野直哉, 磯 秋義, 大嶋 隆, 山岸裕治, 難波信治, 久保秀士 (日電)

〔概要〕 VM/4 は統合型の仮想計算機として実現されている。ここでは VM/4 制御プログラムの特徴のある構成と機能概要および性能測定結果について述べる。

(8) 仮想計算機システム高性能化の一手法

小野一明 (富士通)

〔概要〕 高速 VM 機構を用いて実現される高性能仮想計算機システムの高性能化のメカニズムと性能の評価について述べる。

(9) 高性能仮想計算機システムの開発

梅野英典, 大町一彦, 日野 章 (日立・シ研), 井村淳一 (日立・ソフト)

〔概要〕 VMS の高速化手法である常駐 VM 方式と、高速入出力シミュレーション方式の内容と効果について述べる。また、VMS 利用のオンラインシステムの移行形態についても実例を示す。

## ◆ 第 28 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 21 件)

(主査: 木村 泉, 幹事: 久保未沙, 花田収悦)

日 時 昭和 58 年 2 月 9 日 (水) 午前 9 時 10 分～午後 5 時 50 分

2 月 10 日 (木) 午前 9 時 10 分～午後 5 時 10 分

会 場 東北大学工学部附属図書館 工学分館視聴覚室

〔仙台市荒巻字青森, 国鉄: 仙台駅下車, バス: 工学部行 (駅前青葉通り日立ショールーム前より乗車) 約 15～20 分, Tel. 0222 (22) 1800 ex. 4270, 4271〕

議 題 2 月 9 日 (水)

(1) 例題系列に基づくプログラムの解析 伊藤貴康, 田村 卓 (東北大・工)  
〔概要〕 プログラムを解析し例題系列を生成するシステムおよび例題系列に基づくプログラムの合成システムについての報告.

(2) マルチターゲット・Cコンパイラの作成  
引地信之, 今井正治 (豊橋技科大)  
〔概要〕 C言語のサブセットのコンパイラのコード生成部の自動作成の一手法.

(3) ネットワークソフトウェアの設計法  
高橋 薫, 白鳥則郎, 野口正一 (東北大・電気通信研)  
〔概要〕 計算機網におけるソフトウェアについて考察し, 変更および保守を容易にするネットワークソフトウェアの設計法.

(4) ソフトウェアの再利用における阻害要因の分析  
西村高志, 廣道博史 (IPA)  
〔概要〕 ソフトウェアの再利用を阻害する要因を分析し, 再利用可能なソフトウェアの形態の整理.

(5) ソフトウェア・ツール・アーカイブ: STAR  
山口圭一, 吉岡寛治, 美馬 勝 (IPA)  
〔概要〕 ソフトウェア・ツールに関する情報を対話形式で提供する STAR の3つの概念 (プロダクションルール, ダイレクトメニュースケジューリング, 質問ネットワーク) の説明.

12:40~13:40 (昼食)

(6) 習熟型ソフトウェア信頼度成長モデル  
梶山昌之, 大場 充 (日本 IBM)  
〔概要〕 テスト担当者のバグ発見能力が習熟によって向上するという仮定に基づいて, 習熟によりバグ発見率が增加する信頼度成長モデルの提案と, その妥当性.

(7) コンパイラのテスト網羅性判定ツール: C-GRAM  
上原憲二, 堀川博史, 大川 勉, 高野 彰, 春原 猛 (三菱電機)  
〔概要〕 コンパイラのテストプログラムが十分かを言語の文法に基づいて判定するためのツールの判定方式と試使用による評価.

(8) ソフトウェアテスト項目作成支援システム AGENT-II の開発と評価  
古川善吾, 車谷博之, 野木兼六, 徳永健司 (日立)  
〔概要〕 入出力形式とテスト項目作成作業の効率との関連を人間工学的観点から考察.

(9) 電子交換システム開発支援システム 鈴木克己, 古城 隆 (日電)  
〔概要〕 大型ホスト, ミニコンとターゲットシステムを有機的に結合した電子交換システムソフトウェア開発環境.

(10) 新幹線車輪フラット検知装置のデータのマイコンによる伝送  
関根朝次, 塩谷明男 (鉄研)  
〔概要〕 市販マイコンと車輪フラット検知装置を接続し, 列車ごとのデータを格納しておき電話呼び出しでデータ伝送をするシステム.

(11) 座席予約システムにおける完全化保守の一例

伊藤 均, 芹沢芳明, 大久保久, 仁村俊明 (国鉄)

〔概要〕 ファイルに異常が発生すると座席の二重発売を防止するためファイル停止としている。回復操作を短縮するため判断業務の一部を自動化する完全化保守について。

## 2月10日(木)

(12) 多人数情報処理教育援助ソフトウェア (TESST) とその使用結果

堀口 進, 川添良幸, 奈良 久 (東北大)

〔概要〕 教育管理等を指向した, 多人数情報処理教育援助ソフトウェア(TESST)の概要とその使用結果。

(13) プログラミング教育におけるエラー分析の一例

平林隆一, 菅野文友(東理大), 猪股邦臣(菱電サービス)

〔概要〕 学生に対するプログラム教育のデータを基にしてヒューマンエラーのメカニズムの分析。

(14) 新人プログラマの生産性成長モデルとその評価 青山幹雄 (富士通)

〔概要〕 新人プログラマの生産性の向上が成長曲線でモデル化できることを明らかにし, 生産性向上の要因を検討。

(15) 企業内教育におけるソフトウェア教育の一方法 高階健一 (三菱電機)

〔概要〕 品質管理手法を取り入れ受講者自身の動機づけをはかると共に人材データベースを用いた集合教育の内容, 受講者から収集したデータの吟味。

(16) テクノロジ・トランスファを前提とした保守方式

麻生忠宏, 海老原進, 大野和憲, 柳原 隆 (日電)

〔概要〕 ソフトウェア開発者から新人保守者へ, 短期間に効率良く技術移管するための一手法と, その実施成果の報告。

## 12:40~13:40 (昼食)

(17) ユーザインタフェースを重視したデータベース管理システム: COODの

利用・評価・発展

田中信行, 吉川悦子 (東北大・理)

松田孝子 (東北大・大型計算機センター)

〔概要〕 COODの満3年の運用経過から, 特徴的利用例に基づきユーザインタフェースの評価・発展を報告。

(18) ソフトウェア開発の作業分析

今藤一行 (三菱電機)

〔概要〕 ソフトウェア開発工程をミクロな作業単位に分解し, それに要求される技能について分析した結果の報告。

(19) プログラムの論理仕様記述方式 PDL と PAD の読み易さによる比較

小滝房枝, 前沢裕行, 川崎善司郎 (日立・シ研)

〔概要〕 制御構造の多重度と読み易さとの関連を実験的に比較し, 論理仕様記述ツール POL/PAD の設計思想の妥当性を検証。

(20) 実行回数計数機能を追加した SNOBOL 4 処理系

吉田和幸, 牛島和夫 (九大・工)

〔概要〕 マクロ言語で書かれた既存ソフトウェアへの機能追加作業の事例研究, 更に使用上の評価, 他システムへの移植。

(21) Ada 並行処理機能の実証的评价

藤田昭平 (東工大・工)

〔概要〕 並行プログラミングの基本原則について Ada マシンによる具体的な実行結果に基づく実証的評価。

◆ 第 29 回 知識工学と人工知能研究会 } 合同  
第 24 回 記号処理研究会 }

(発表件数: 9 件)

AI (主査: 志村正道, 幹事: 辻井潤一)

SYM (主査: 池野信一, 幹事: 黒川利明, 中西正和, 後藤滋樹)

日 時  
会 場  
議 題

昭和 58 年 2 月 14 日 (月) 午前 9 時半~午後 5 時

機械振興会館 地下 3 階研修 1 号室 (所在地は前記参照)

(1) 自然言語処理との共働を考慮した図形認識について

高木 朗, 六沢一昭, 伊東幸宏, 小原啓義 (早大・理工)

〔概要〕 簡単な二次元図形の特徴, 動き等を検出し, 自然言語に変換し易い形の結果を得るシステムの研究報告。

(2) 視覚情報からの自然語文の生成について

高木 朗, 伊東幸宏, 北岡和憲, 清水正朗, 小原啓義 (早大・理工)

〔概要〕 簡単な図形からなる画面の解析結果から, 様々な自然語文を生成するシステムの研究報告。

(3) ルールに基づく機械・装置類の故障診断アシスタントの汎用作成用具

PRODOG について

平井成興 (電総研)

〔概要〕 診断用ルールを用いて機械類の故障診断を支援するための汎用システムを紹介し, 従来の故障診断チャートやフォールト木などの違い, 特質を考察する。

(4) プロダクション・システムの考察

上野晴樹 (電機大・理工)

〔概要〕 最も基本的な知識型システムであるプロダクション・システムの諸側面を開発の立場から考察する。

(5) 算数の文章題を解くプログラム

牧尾善憲(住友電工), 志村正道 (東工大・工)

〔概要〕 発見的に公式を適用して方程式を導びくことにより, 算数の文章題を解いていく対話型システムについて述べる。

(6) マイクロプログラミング方式による LISP 処理系 AIM 1.0 の実験評価

—LISP コンテストの実験結果—

伊藤貴康, 岸本光弘 (東北大・工)

〔概要〕 LISP 処理系 AIM 1.0 の性能評価を LISP コンテストの問題を用いて行ったので, その評価結果を報告する。

(7) SCHEME コンパイラについて

元吉文男 (電総研)

〔概要〕 SCHEME コンパイラを DEC 2060 上に開発したので概要を報告する。

(8) マルチ CPU LISP 処理系 SYNAPSE について

中西正和, 松井祥悟, 加藤良信, 伊藤精二 (慶大・理工)

〔概要〕 MC 68000 を用いたマルチ CPU の Lisp 処理系の設計および製作について。

(9) An Unification Algorithm for Infinite Trees

向井国昭 (ICOT)

〔概要〕 無限木に対する簡単な統合化アルゴリズムを提案し, その停止性を証明

する。インプリメント上の問題点についても若干ふれる。

## ◆ 第 16 回 設計自動化研究会

(発表件数：4 件)

(主査：山田昭彦，幹事：上田 勳，和田 康)

- 日 時 昭和 58 年 2 月 15 日 (火) 午後 1 時半～5 時  
会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)  
議 題 (1) コンピュータネットワークによる並列論理シミュレーションの検討  
古賀義亮，竹之上典昭 (防衛大)  
〔概要〕 3 ポートコンピュータネットワークを用いた論理シミュレーションの並列処理について検討考察する。  
(2) テーブルドリブン方式論理機能シミュレータ  
樋浦尚登，星野民夫，上田和宏，渡辺俊男，菊池満孝 (武蔵野通研)  
〔概要〕 テーブルドリブン方式論理機能シミュレータの処理アルゴリズムを述べている。ゲートレベルでは多値論理の高速化処理としてテーブル参照手法を，機能レベルでは複数ビットを扱う可変長イベント処理，レジスタレベルでのパラレル動作処理，複数信号源からの同時転送等の設計エラー検出方法を述べる。  
(3) 問い合わせ機能を持つ回路図入力編集システム 川本栄二 (東芝)  
〔概要〕 論理シミュレーション，自動配置配線などの LSI 回路 CAD の利用を支援する会話型回路図入力システムについて紹介する。  
(4) LSI マスクパターン検証システム MIAS  
安藤 宏，小池 豊，平川和之 (沖電気)  
〔概要〕 MOS 論理 LSI のマスクパターンを論理シミュレータを用いて検証する手法および結果を紹介する。

## ◆ 第 17 回 分散処理システム研究会

(発表件数：4 件)

(主査：戸田 巖，幹事：田中英彦，村上国男)

- 日 時 昭和 58 年 2 月 17 日 (木) 午後 2 時～5 時  
会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)  
議 題 (1) ローカルエリアネットワークの相互接続方式の検討 明石文雄 (日電)  
〔概要〕 LAN の相互接続に関し，諸方式の優劣比較をすると共に，CSMA/CD アクセスにおける「ブリッジによる接続方式」の提案を行う。  
(2) 分散型データベースにおける更新制御の一方式  
広田豊彦 (京大・情報処理教育センター)，大野 豊 (京大・工)  
〔概要〕 重複データの一貫性・同一性を保証する更新制御方式 DLOPS (論理時刻同期型プロトコル選択方式) の提案とその性能評価について。  
(3) オンライン高速発券システムにおける分散処理  
槻木公一，剣重寿和，長谷川洋太郎 (国鉄)  
〔概要〕 国鉄の次期「緑の窓口」システムの第 1 段階として開発されたオンライン環境下の高速発券システムにおける分散処理方式を紹介する。  
(4) MELCOM-COSMO 計算機の遠隔保守支援システム

西山 昇, 朝比奈 保 (三菱電機)

〔概要〕 MELCOM-COSMO シリーズの遠隔保守支援システムに関し, 新しい試み (自動ダイヤル, 自動ログ収集 etc) を中心に, 将来の遠隔保守のあり方を探る.

◆ 第 34 回 データベース・システム研究会

(発表件数: 8 件)

(主査: 酒井博敬, 幹事: 有澤 博, 吉田郁三)

- 日 時 昭和 58 年 2 月 17 日 (木) 午前 9 時～午後 5 時  
会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)  
議 題
- (1) データベースのバッチ変換システム TRVS/DB について: MPDL コンパイラによるデータベース変換プログラムの生成  
米田 茂(日立・シ研), 塚野博実(日立マイコン)  
〔概要〕 TRVS/DB の中核部でありプログラム生成を携る MPDL コンパイラおよびそれにより生成される Restructurer について各々の処理方を述べる.
- (2) データ従属性理論と関係データベース論理設計 勝野 裕 (武蔵野通研)  
〔概要〕 データ従属性理論が関係データベース論理設計にどのような形で役立つかを議論する.
- (3) スキーマ変換法による問い合わせ処理の一手法  
大谷 巧, 馬場敬信, 山崎勝弘, 奥田健三 (宇都宮大・工)  
〔概要〕 関係モデルにおける問い合わせ処理の一手法としてデータ独立性と処理性を指向した「スキーマ変換法」を提案し, その評価結果について述べる.
- (4) 異種記憶媒体に構築されたデータベースの検索応答時間について  
渡辺豊英, 堀池博己, 小沢義明 (京大・大型計算機センター)  
〔概要〕 本稿では, Mass Storage System と磁気ディスク装置というアクセス時間の異なる記憶媒体にデータベースを構築した場合の平均検索応答時間について, MSS 解析モデルを用いた算定法を述べ, 併せて京都大学大型計算機センターの状況についても分析する.
- (5) オンライン検索のための文献データ圧縮技法  
二村祥一, 松尾文碩 (九大・大型計算機センター)  
〔概要〕 圧縮率が高く, 高速復号器が実現できる英文二次文献のためのデータ圧縮技法を開発し, INSPEC テープを対象に圧縮実験を行った.
- (6) Horn 集合に基づく会話型データ操作言語 高木利久 (九大・工)  
松尾文碩(九大・大型計算機センター), 牛島和夫 (九大・工)  
〔概要〕 推論関係型データベース管理システム Adbis における会話型データ操作言語 Tsuno の概要を報告する.
- (7) 実体/事象モデリングによる要求定義の一手法  
堀内 一, 木戸恭彦 (日立)  
〔概要〕 現行システムモデルから概念データモデルを作成し, 実体/事象認識に基づきながら新システム要求を分析する手法を述べる.

(8) 2項データモデルへのデータ入力言語 NIL

穂鷹良介(筑波大), 蔣 新兎(南京大)

[概要] 設計者が会話的にデータベースにデータを入力するための言語の変種のすべてを一律に2項データモデルの枠内に入れ, 言語自身の設計変更柔軟に対処するための工夫について述べる.

◆ 第4回 数値解析研究会

(発表件数: 3件)

(主査: 一松 信, 幹事: 戸川隼人, 山下真一郎)

日時 昭和58年2月23日(水)午後1時半~4時半

会場 機械振興会館 地下3階1号室(所在地は前記参照)

議題 (1) 特異解の近傍における Newton 法の挙動 山本哲朗(愛媛大・理)

[概要] 上記標題に関し, 最近この分野で得られている結果を紹介する.

(2) 代数方程式の全根同時解法の重根における挙動 田辺國士(統計数理研)

[概要] 全根同時求解型の代数方程式の新解法を与え, 重根の場合に示す挙動を利用して, より精度の高い解を求める工夫について述べる.

(3) Singular point における Newton 法と singular point の幾何学的特徴付け

山本範夫(徳島大・工)

[概要] パラメータとヤコビアン行列の singularity を使えば, ニュートン法が適用可能であることを示す.

◆ 記号処理研究会

第25回研究会を3月18日(金)武蔵野通研にて開催いたします. 発表希望者は1月中に事務局研究会係までご連絡下さい.

◆ グラフィクスと CAD 研究会

第9回研究会を「グラフィクス標準化」特集として, 3月22日(火)東京にて開催いたします. 欧米におけるグラフィクス標準化の現状を紹介し, 討論しようとするものです. 事例, 考え方などの発表も歓迎いたします.

◆ 自然言語処理研究会

第36回研究会を3月14日(月)東京の朝日新聞社で行います. 尚, 当日はネルソンの見学も予定しています.



## 会員事務の EDP 化に伴う再登録について (お願い)

明けましておめでとうございます。昨年は面倒な再登録をお願いしたところ、ご協力いただきまして有難く存じます。まだご回答されていない方がありましたら、期限は過ぎておりますが早急にお送りください。

なお、再登録にあたり送本先等の変更を希望された方で、その旨のメモが記載されていない場合には、変更処理がおくることがありますのでご了承ください。

## 情報処理学会第 26 回 全国大会 (昭和 58 年前期) 概要

- 開催期日** 昭和 58 年 3 月 15 日 (火)~17 日 (木)
- 会場** 東京工業大学 (東京都目黒区大岡山)
- 一般参加費** 大会当日会場にて受付ます (登壇論文発表者以外).  
会 員 1,000 円 (賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます).  
非会員 2,000 円
- 講演参加費** 登壇発表者は原稿提出と同時に納入してください (原稿用紙は 12 月下旬に送付しました. 原稿締切 1 月 31 日).  
7,000 円 (論文集 1 部, 別刷 50 部を含む). ただし, 1 人で 2 件以上登壇発表される方は, 2 件目から 1 件ごとに 2,000 円を追加請求いたします.
- 論文集予約** 予約を原則とします. 前号綴込みの申込書により, 58 年 2 月 25 日までに事務局へ申込みください.  
予約価 5,000 円 (定価 6,000 円)  
(予約者以外にお願いできるのは, 大会当日残部のある場合に限りです.)
- プログラム** 詳細は 2 月号に掲載します. 登壇論文発表者はとくにご注意ください.
- 特別講演** (3 月 15 日 10:00~11:30)  
日本人の創造性 (仮題) 山本 七平
- 招待講演** (3 月 16 日 12:15~13:45)  
ロボット工学の現状と将来 梅谷 陽二 (東工大)
- パネル討論** (2 件)  
論理型プログラミングとオブジェクト・オリエンテッド・プログラミング  
(3 月 15 日 12:30~14:45, 15:00~17:00)  
(司会) 和田 英一 (東 大)
- ソフトウェアメトリクスの現状と課題 (3 月 17 日 12:30~15:00)  
(司会) 藤野 喜一 (日 電)
- 一般セッション** (論文発表 757 件)

## 「自然言語処理技術」シンポジウム論文募集

近年、計算機による自然言語の処理は、機械翻訳・OAをはじめとして、応用・理論の両面において急速な進展をとげ、計算機科学・技術の重要な一分野となりつつある。

本シンポジウムでは構文解析・意味解析等の基礎的・理論的な問題から、機械翻訳・QA等の自然言語処理技術の応用システムにわたっての幅広い最新の成果を総括し、自然言語処理技術の将来を展望するひとつの場とすることを旨とする。

期 日 昭和 58 年 6 月 16 日 (木), 17 日 (金)

会 場 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

トピックス 理論・技法: 構文解析, 意味処理, 自然言語理解と知識処理, 対語と言語行動  
応用分野: 機械翻訳, データベースアクセス, QA, 情報検索, 自動抄録,  
辞書・ターミノロジーデータバンク, OAへの自然言語応用, 自然言語による仕様記述

- 実施方法 (1) 発表論文については、公募および研究連絡委員による推せんとするが、原則として論文審査制をとる。  
(2) 審査委員会は研究連絡委員によって構成する。  
(3) 応募論文は英文 (5,000 語以内) または和文 (9,000 字以内) とし、英文の場合は A 4 判に double space で投稿のこと。採択論文については Proceedings を発行する。  
(4) スケジュール

応募論文提出 3 月末日まで

採否の決定 4 月 15 日

本論文提出 5 月 10 日

連絡先・論文提出先 京都大学工学部電気第 2 教室 長尾 真

Tel. 075 (751) 2111 (内線 5344)

※ 参加申込み等については今後本欄でお知らせいたします。

## 支 部 だ よ り

### 九州支部講演会開催のお知らせ

大分大学計算機センターとの共催で、下記のとおり講演会を開催いたします。奮ってご参加ください。なお、会員外の方のご来聴も歓迎いたします。お誘い合わせのうえお越しください。

記

日 時 昭和 58 年 1 月 27 日 (木) 13: 00~

場 所 大分大学計算機センター (大分市大字且野原 700)

講演者 坂本 義行 (電総研)

演 題 日英科学技術文献の速報システムについて

## 欧文誌の原稿募集について

1978年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

### 1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

### 2. 発行計画

(1) 50ページ×4回/年=200ページ，A4判

(2) 純学術研究発表誌とし，Paper と Short Note を募集する。

(i) Paper (原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき，欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note (2ページ以内に限り)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて，採録を認められた欧文による小論文。

### 3. 「情報処理」との関連

Paper と Short Note の和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

### 4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い，1行65ストローク，ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し，パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で，欧文誌刷上り8ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体，数式中の記号は(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上，タイトル，氏名，所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paper のアブストラクト——200語以内

(ii) Short Note のアブストラクト——50語以内

(3) 図表(写真を含む)は，完成図(そのまま縮小製版できるもので，縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお，文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし，説明文は別紙にまとめてタイプし，本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

### 5. 原稿の送付

(1) コピー4部を送付する。

(2) 送付先：情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3号

### 6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として，ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000